

「ロボットてんとうむし」

松浦 聡希（まつうら さとき） 5歳

千鶴幼稚園

（備後教区）

●表紙のことば●



おお はし いさお
大橋 功

岡山大学大学院
教育学研究科

画面真ん中に描かれた大きなてんとう虫は、さときさんが興味を持って観察し、自分で気付いたことを丁寧に表現していることがわかります。頭がこちら向きで、腹側を見せながらも、特徴的な背の甲の部分も描き、さらに羽を広げて飛んでいるのです。足には細かなトゲがあることも実際に触って気付いたことなのでしょう。さらに、まわりには不思議なものも描かれています。ピーカーとガラス管などの実験器具、木、ひつつき虫、きのこ、時計、不思議な装具を着けた人？ など、画面いっぱいにお話が広がっています。

園内には自然や生き物に触れられるグラウンドがあり、そこで、てんとう虫を見つけたさときさんは、「たくさん増えれば良いな」と自分が研究者になって、てんとう虫を増やすロボットをつくっているところなのだそうです。自由に自分の想いを表現できる環境があるこの園だからこそ、思いを素直に表現する雄弁な描画活動に繋がっているのです。